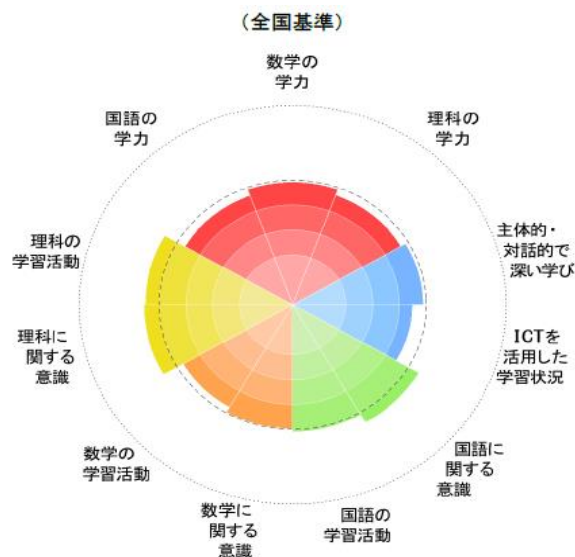
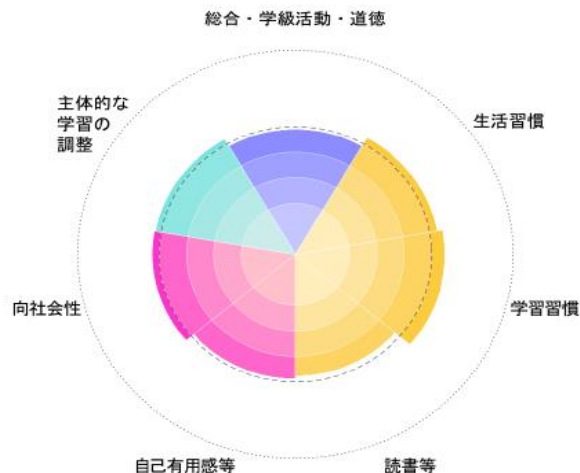


令和7年度 全国学力・学習状況調査における筑西市内中学校等の結果について

1 教科を中心とした学力・学習状況



2 その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）



【国語の学力・学習状況について】

◇文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。

◆文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

→ 今後は、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることに取り組んでいく。

【数学の学力・学習状況について】

◇必ず起こる事柄の確率について理解することはできている。また、素数や相対度数の意味を理解することについては、全国の平均正答率を上回った。

◆事実・事柄の説明を記述したり、図形の証明をしたりすることに課題がある。

→ 今後は、文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導すること、仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することに努めていく。

【理科の学力・学習状況について】

◇科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りについて表現することはできている。

◆露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することに課題がある。

→ 今後は、小学校で学習した知識を基に、粒の大きさの異なる地層モデルを用いた実験を通してその特徴を見だし、実際の地層とを関係付けて解釈する場面を設定する。また、地層を構成する粒の大きさと水のしみ込み方を関連付けて理解できるように指導していく。

【ICTを活用した学習状況について】

1. 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日」活用したと回答した生徒の割合は37.0%で、全国平均を16.2ポイント、県平均を28.5ポイント下回った。また、自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思うと肯定的に回答した生徒の割合は55.1%で、全国平均を8.2ポイント下回ったことから、授業におけるICT機器の活用が進まないことが、生徒の情報活用能力の向上にも影響していることが明らかとなった。今後は、教師主導の授業から生徒主体の授業への転換を図るとともに、タブレットを「文房具」として日常に溶け込ませる仕組みを構築していく。

【生活習慣について】

「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒の割合は、それぞれ81.9%、59.0%であり、全国平均を3~4ポイント程上回った。生活リズムを整えて規則正しい生活を送ると、心身ともに安定した状態を保つことができ、その結果、頭の回転が活発になり、勉強に集中できるようになるので、学校が休みの日もいつもと変わらない時間に起きて朝食を食べられるよう、家庭でもご協力願います。

【学習習慣について】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強していると回答した生徒の割合は65.1%で、全国平均を上回ったが、2時間以上になると全国平均を3.3ポイント下回った。このことから、学校から与えられた課題には取り組むことはできるが、自ら考えて学習に取り組むことはできない生徒が多いと考えられる。今後は、中・短期的な目標を設定し、その目標の達成に向けて自主的・計画的に家庭学習に取り組むことができるように支援していく。

【自己有用感等について】、【総合・学級活動・道徳について】

「自分には、よいところがある」、「学校に行くのは楽しいと思う」生徒が、全国や県よりも少ない傾向にあった。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した生徒も、全国や県よりも少ない傾向にあった。今後は、生徒一人一人の挑戦心や達成感、自己有用感などを高めていけるよう、総合的な学習の時間や学級活動、道徳の授業の充実に努めていく。